

大井町立相和小学校

研究テーマ：児童一人一人が自ら問いを見出し、学び合いをとおして深める授業

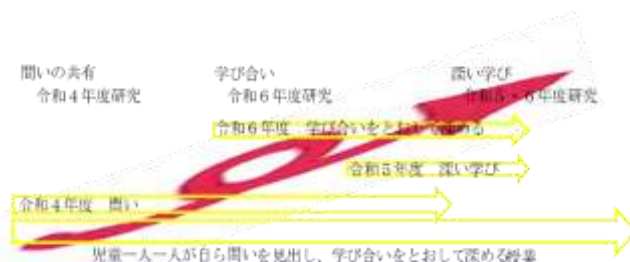
1 実践の目的

今年度は、昨年度焦点を当てた「深い学び」に向かう研究に加え、学び合いをとおして深めるところに重点を置いて取り組んだ。単元や1時間の授業における「深い学び」とは児童のどのような姿を捉えればよいか、また、目標達成のためにどのようなことに取り組めばよいかについて考え、授業や協議を行った。本校では、昨年度「深い学び」を、学び合いや振り返りの中で、

子どもたちの「考えが変容する」
子どもたちが「考えをつなぎ合わせる」
子どもたちが「多面的に物事を捉え、考える」
子どもたちに「変化や深まりが見られる」

という上記四つの姿を考えたが、より児童の具体的な姿で見取り、蓄積することで、深い学びについての理解を深めることを目指して実践した。

○学びの構想図



2 実践の内容

(1) 授業研究

児童を中心に考え、学びの質を高めるために、具体的な児童の姿、発言、関わりが、担任がねらいとする「深い学び」になっていたかどうか、研究協議で検証した。授業の中で児童が深く学ぶ姿、発言、関わりが見られるよう、事前に計画するとともに、手立てや留意点、支援の方法について指導案に明記し、職員で共有してから授業実践を行った。



(2) 異学年交流

異学年合同学習

算数の一部、音楽、家庭科、体育の教科で取り組んだ。児童からは、「たくさん学び合い、話し合うことができた。」「わかりやすい説明の仕方考えることができた。」と、振り返る姿が見られた。

学び合いタイム

家庭学習(9月)、国語「書くこと」(11月)、国語「話すこと・聞くこと」(1月)に

ついて、相和っ子班（異学年縦割り班）で取り組んだ。書き方や話し方にいろいろな表現方法があり、質問したり教え合ったりすることで、仲間と学び合う時間になった。

ノート交流

家庭学習ノート（7月）、道徳ノート（10月）、算数ノート（1月）について紹介し合った。友達同士で認めてもらえる喜びを感じたり、ノートづくりのポイントをおさえ、次につながるノートづくりを意識させたりすることができた。



（3）学びのアンケート

児童と職員を対象に、7月と12月の2回、「相和っ子学びのアンケート」を実施した。研究テーマ：「深い学びについて」の設問「どのような場面で、学びが深まったと感じますか」では、次のような回答が得られた。

児童より

友達の疑問を聞いて、自分の考えを言えた時
 友達の意見で考えが広がった時
 新しい発見が見つかった時
 みんなで協力して問題に取り組み、解決した時
 普段の生活で、習ったことを使えた時

職員より

子ども自身の生活に沿った考えが出てきた時
 互いの意見を伝え合い、変容や自信が見られた時
 話し合いをとおして、わかるようになった時
 本時に得てほしい内容に到達した時
 振り返りに共感、納得、発見などの記載がある時

3 実践の成果と課題

成果:算数 前単元や前時の学習など、既習事項や学んだことをつなぎ合わせながら考える姿が見られた。また、教師が、想定され

る問題解決の方法を複数準備することで、児童が様々な方法を試し、多面的に捉えて考えることができた。

成果:道徳 自分たちが追究したいことについて考え、話し合う授業を積み重ねることで、児童自ら問いをもち、自分事として考えたり、話し合ったりする姿が見られた。また、自分の考えが変容したり深まったりした。

課題:算数 どの子にとっても、学びが楽しく、学んだことを日常に生かせるよう、教材研究をしていく必要がある。

（大井町学びづくりアンケート）

「算数の授業で、どのような時間が楽しいと感じますか。」



課題:道徳 題材や展開によって、教師の問い返しの発問を工夫することで、深い学びや、日常生活につながるようにしていく。

（大井町学びづくりアンケート）

「道徳の授業で、大切だと思うことは何ですか。」



4 今後の展開

学びをとおして目指す子供の姿を職員で共有し、そのために行う具体的方策を計画、実践していくことで、児童を中心に考え、学びの質を高める授業改善を行っていききたい。